人生

瑠莉華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
人生

【Ｎコード】
Ｎ９２４６Ｇ

【作者名】
瑠莉華

【あらすじ】
記憶に残っているとこだけ書きました。

（前書き）

意味がわからないかも知れませんが、読んで下さい。

０才

私は産まれる確率は３０％だったそうだ。

産まれてきた時
顔は真っ青で、
首にはヘソノウが
巻き付いていた。

泣きもしなかった。

しかし私はなんとか一命をとりとめた。

産まれて次の日検査をした。

病気だった。

『腎臓病』
『慢性腎炎』

私はそれを背負って産まれてきた。

１才

私は入退院を繰り返していた。

家のテレビを見過ぎて

『斜視』になった。

この斜視のせいで人生めちゃくちゃだった。

2才

記憶にない。

多分、病院生活をしていた。

3才

私は斜視を治す手術をした。

成功したが治らなかった。

4才

保育園に入園した。

しかし毎日熱が出てお母さんに迎えに来てもらってた。

だからあまり行っていなかった。

5才

保育園にも行くようになりつつあった。
しかし外で元気に遊ぶ事は禁じられていた。
プールさえ入るのはダメだった。
私はイジメにあっていた。
斜視のせいで。

そして、親が離婚をした。
私をどっちが引き取るかでもめていた事を私はハッキリ覚えている。
私は姉とともに母親のもとで暮らす事になった。

6才
小学1年になった。
体もだんだん丈夫になって体育する事などできるようになった。

7才
2年生になった私は毎日が楽しい事ばかりだった。
バスケとの出会いがこの頃かな。

姉が荒れ出した。

８才

私は３年生

イジメに少しあった。
けどすぐ無くなった。

ミニバスをしたかったから親に言った。

しかし答えはわかっていた。

腎臓病は運動制限があったから体を動かすのはダメだった。

けど諦めなかった。

親はバスケのコーチにいろいろ話をして許可をもらった。

みんなとは違うメニューをしたり楽にするならいいと言われた。

初めてのスポーツ。

このバスケのお陰で生きる勇気をもらった。
バスケは私の命です。

私の姉が施設に引き取られることになった。

私は姉が無理矢理連れて行かれるのを見て泣いた。

姉は寂しかっただけやと思うのに。

だから友達とずっと一緒に居たかっただけだよね！？

薬をしたのは、紛らわす為にやったんだよね！？

お母さんはうちの事ばかり構っていたから寂しかったんだよね！？

お母さんをとってごめん。

一番の寂しがり屋はお姉ちゃんだよね。

私は車でずっと泣いた。

私『なんでお姉ちゃんを連れて行くん』

母『これはお姉ちゃんのためなんやで。将来困らんようにやから。』

車を降りて施設行く途中のエレベーターで姉は暴れた。

姉『おい糞ババァ。子供を施設に預けるんか。最低なババァやなぁ』

母は無視していた。

母もきっと苦しかっただろう。

私にはどうする事も出来ない。

悔しかった。

姉は３ヶ月施設で暮らす事になった。

たまに面会に行くと楽しくやっているので嬉しかった。

母は仕事があるのでうちは一人暮らしみたいな生活をしていた。

夜は怖くて泣いた。

９才
４年生

私も学校では荒れ始めていた。

しかしバスケだけは真面目にしていた。

バスケだけがうちに勇気をくれる。

何も考えずに集中出来る。

４年の終わりに私は隣の町に引っ越した。

理由は、うちが姉のようにならないように

らしい。

姉はまた事件を起こし、鑑別所に入れられた。

私は新しい学校でイジメられた。

また斜視のせいで。

先輩にイジメられていたからまだマシだったかな。

バスケも引っ越したから続けれなかった。

私の命が・・・

私は姉と手紙交換で救われた。

お姉ちゃん

ありがとう。

姉は刑務所か少年院

どっちに入るかを決める大変な時期だったのに。

姉は一年間少年院で済んだ。

１１才

５年生

学校に行かなくなった。

昼間は家に居て

夜は外で遊ぶ

そうゆう生活をしていた。

精神病院に連れて行かれた時もある。

なんで学校行かなかったかは誰にも話して居ない。

私はイジメにあっていた事を誰にも言わない。

そんな事自分で解決しなきゃ。

１２才

６年生

学校に行くようになった。
学校で一番のグループに入っていた。
一番楽しかった。

姉が帰ってきた。

１３歳

中学１年生

一つ言い忘れていた。

私は自分を女と思いたくはなかった。

男とも思いたくなかった。

だからスカートは嫌いではかなかった。

胸が出てきた時哀しかった。

だから制服を迷った。

スカートか

ズボンにするか

どちらでもいい学校だったので迷った。

しかし親はスカートがいいと言うのでスカートを選んだ。

クラスには知らない人ばかりだった。

私の親友が居たので良かった。

友達も出来て文句なしの中学生活を送れる。

そう思っていたのに・・・

国語の時間に先生が本を紹介した。

タイトルは忘れたが病気の仔が出て来る本だ。

先生『この本は腎臓病の仔が出てくる本で、けど中3で亡くなってしまう本なんやけど』

私は怖くなった。

自分も死ぬんだと思った。

私は母に言った。

私『うち死ぬん！？』

母『誰でも死ぬやろ。あんたは確かに病気持ってるし治らんけど、移る病気でもないし心配せんでえぇ。あんたには隠してたけどな、本当は４人兄弟やってんで。けどなお腹の中で死んでん。あんたはそんな中で産まれれてん。その病気は２人の生きれなかった証やって思って背負ったらいい。』

私は確かに産まれてこれただけで満足だ。

なんで普通に産まれてこれなかったんやろう。

って毎日悩んで泣いた。

ほんとに苦しかった。

学校生活は荒れ始めていた。

私は友達がイジメられていたら何もしないなんて事はできなかった。

イジメた奴と喧嘩をし、殴り合いをした。

顔を殴られ視力が無くなった時もある。

私はまた学校に行かなくなった。

けどイジメられたって言う噂が来たら学校に行きその仔の側に居てあげた。

１５歳

中学３年生

中学２年は学校に行ってないから記憶にない。

家が無くなった。

家族バラバラに暮らしていた。

私は姉の彼氏の実家に預けられた。

３ヶ月続いた。

ハイツを借りみんなで暮らせるようになった。

学校にも行くようになった。

勉強は出来ないが、友達の相談を乗ったりしていた。

私は1人の女の子から告白された。

私は確かに男のように生きてきた。

しかし好きになるのは男だ。

私は断った。

けどその仔は私を誰かに紹介するときは

『うちの彼氏やねん』

とか言う。

まあ好きにさせていた。

私が違う友達と喋っていたらヤキモチ妬いて、その女子を睨んだりしていたらしい。

友達から

『愛莉（私）と話してたらめちゃ睨まれんやけど。だから気使うわ。
』

って言われた。

私はどうする事も出来ず、その仔のクラスには行かないようにしていた。

メールは酷く来た。

けど頑張って交わしていた。

私は学校で一番性格がいいで1位を取った。

顔は悪いけど（笑）

受験・・・

私は悩んだ。

けど行く事にした。

母も姉も行ってなかったから。

頑張って勉強をした。
受験１ヶ月前に（笑）

公立に行ける頭にはなったけど、内申がなかったから諦めた。

私立

受かった。

卒業するまで遊びたおした。

卒業式

泣けなかった。

思い出がないから。

父親に会う事になった。
１０年ぶりだった。

自分に似てる・・

そう思った。

私は家族誰にも
似ていないと
前から思っていた
姉は母親にすごく似ているが、うちは誰にも似ていない。
会ってやっとわかった。
父親は再婚していて子供が居るらしい。
私の妹にあたる仔が。
写真を見たら、うちに少し似ていた。
『幸せにしてあげてな』
そう一言言った。

今は高校を頑張って通ってます。

私は今一生懸命生きています。
健康な人より早く死ぬからって命を無駄にはしません。
苦しい生活をしているからって投げ出したりしません。

皆さん、人は性格が良かったら周りは笑顔になります。

イジメ

絶対にやめて下さい。

『幸せな人生』

それは産まれてこれた事だと思います。

皆さんの幸せを私は願っています。

（後書き）

読んで下さってありがとうございます。良かったら感想お聞かせ下さい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9246g/

人生

2010年10月28日08時28分発行